



富山県立興南中学校 学校だより

『創造・敬愛・不撓』



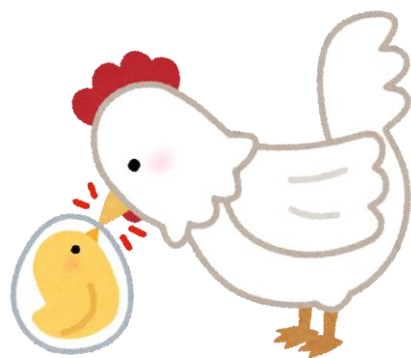
「大切にしたい『啐啄同時』の心」

校長 作道 正也

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、タイトルに掲げた「啐啄同時（そったくどうじ）」とは、禅宗で、師匠と弟子の呼吸が一致するときに、悟りが得られるという意味の言葉です。

「啐」は鶏の卵がかえる時、殻の中から雛が外へ出ようとしてくちばしで突く音、「啄」は母鶏が雛を早く外へ出してやろうとして殻を外から突き破ることです。雛が卵の外に出ようとして、一生懸命に中から殻を突いているのに、母鶏が気付かず手助けをしないのも、雛の方の準備がまだできていないのに母鶏が外から殻を突き破ってしまうのもいけません。タイミングよく両者のはたらきが合わさったとき、うまく雛は生まれでることが



ができます。

これを「学び」の場に当てはめると、学ぼうとする者の状態に合わせてタイミングよく教えることで学習の効果が上がる、ということになるでしょう。

以前勤務した学校の校長室に、この「啐啄同時」を記した書が額装して掲げてありました。その意味を調べてから、この言葉は、私にとって大切にしたい言葉の一つになりました。

文部科学省では、学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが求められるとしており、本校では研修主題として掲げています。

明治の学制公布で近代教育制度が始まってから、日本の教育では、効率のよさを優先した一斉授業のスタイルが当たり前のものとなってきました。一斉授業が必要な場面ももちろんありますが、一斉授業だけでは「個別最適な学び」への対応は困難です。「個別最適な学び」に向けて、授業のスタイルも変わりつつあります。一人一台端末をはじめとしたICT機器の活用が「個別最適な学び」への大きな助けとなると考えられています。

「啐啄同時」の大前提にあるのは、「雛がかえろうとしている」ことです。「学び」の場に置き換えると、「学ぶ者が学びたいという意欲をもっていること」です。難しいことではありますが、なんとか生徒の「やる気スイッチ」を押し、学ぶ意欲を引き出していきたいと考えています。

3学期の行事予定

1月23日（金）第5回学校運営協議会	2月23日（月）天皇誕生日
26日（月）教育相談（～2/6）	24日（火）1、2年学年末考査(～26日)
2月6日（金）新入生説明会	3月12日（木）卒業式
11日（水）建国記念の日	20日（金）春分の日
18日（水）3年学年末考査（～19日）	24日（火）修了式

＜学校評価アンケートの結果のご報告＞

「学校に来ることが楽しい」と感じる生徒が96%～出席率の向上にも手応え～

学校評価アンケートの結果をもとに、今年度掲げていた重点目標（アクションプラン）に対して、どのような手立てを講じ、結果がどうだったかをまとめました。

重点目標① 12月までの出席率を95%以上とする（前年度94.3%）

手立て・生徒が「学校に来ることが楽しい」「学ぶことが楽しい」と感じられる雰囲気づくりに努める。

・自他のよさを認め、伸ばし、生かすことのできる生徒を育てる。

達成度

- 結 果**
- ・学校に来ることが楽しい 96.4%
 - ・仲間に思いやりをもって関わることもできた 97.2%
 - ・仲間のよさを認めて互いに高め合うことができた 95.0%
 - ・12月までの出席率96.4%（前年度+2.1ポイント）

考 察 今年度、本校が注力してきた「生徒のよさを伸ばし、生かす」という手立てが、生徒たちの自己有用感（自分は大切な存在だという気持ち）を育んだ結果であると分析しています。互いに高め合う雰囲気の中で、「自分も仲間の役に立っている」「学校に自分の役割がある」という実感が、学習や行事への意欲となり、95%を超える高い出席率を維持する原動力となりました。今後も、この活気ある雰囲気を継続させていきます。

重点目標② 主体的に学習に取り組むことができたと感じる生徒の割合を80%以上とする

手立て・各学年で実態に合わせた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
・どの生徒も学び合う感覚、分かる・できるという期待感をもち「主体性を育み」「問題解決的な学習」を取り入れた授業を展開する。

達成度

- 結 果**
- △ ・グループ活動では、積極的に発言するなど意欲的に取り組んだ 74.6%
 - ・授業で「わかる」「できる」と感じることがある 93.2%
 - △ ・家庭学習の習慣が身についている 72.1%

考 察 今年度、本校が注力してきた「わかる・できるという期待感をもてる授業づくり」は、93.2%の生徒が肯定的に回答するという大きな手応えを得ることができました。一方で、「グループ活動での発言（74.6%）」や「家庭学習の習慣化（72.1%）」が目標の80%に届かなかった点については、今後の重要な改善指標と捉えています。「わかった！」という自信があるからこそ、失敗を恐れずに自分の考えを仲間に伝えられる。そして、学校で得た知的好奇心を家庭での学習に繋げていける。次年度は、この「わかる」の先にある「主体的な発信」と「自律的な学習習慣」の育成を目指し、対話の場面設定や家庭との連携をより一層工夫してまいります。

ホームページをぜひご覧ください

本校では、生徒の活動の様子をホームページで随時、発信していきます。普段の学習の様子や学校行事の様子、部活動の様子等、生徒の生き生きとした姿をぜひご覧ください。なお、急な下校時刻の変更や配布文書は、連絡アプリ「tetoru」にてお知らせいたしますので、

こちらもご活用ください。よろしくお願いします。

ホームページ URL <https://swa.toyama-city.ed.jp/toyama117>

QRコード

